

会山行報告書

| | | | |
|-------------------------|--|---------------------|-------|
| 通算山行 NO | NO.318B(オート・ルート訓練) | 報告者 | 後藤 隆徳 |
| 年 月 日 | 2006年04月09日(日・うす曇) | | |
| 山 名 | 北アルプス・焼岳南峰(2455m) | | |
| 地 図 | 2万5千図=焼岳 | | |
| 体力度=4・少し厳しい 普通 道標=なし | 技術度=4・頂上アタックは少し厳しい 展望度=穂高・笠・乗鞍・霞沢岳 | 藪漕度=ない 三角点=二等三角点 | 読図= |
| 季節外れの大雪を堪能する | | | |
| コースと タイム | 中の湯6:00—高天原—南峰南尾根—焼岳南峰10:05—南尾根—高天原—中の湯12:10 | | |
| 標 高 差 | 上り=中の湯約1500m～南峰2455m=約955m 下り= 同上 | | |
| 参 加 者 | CL・後藤隆徳(59)、加藤秀子(57)、神村文男(53・取手山の会) | | |

金・土・日で越後駒の計画だったが、土が悪天候で十石山・焼岳に変更。8日土曜朝、白骨温泉で起床すると雪がバンバン降っていた。行動は中止しオート・ルートの打ち合わせと装備の買出しに松本の「カモシカ・スポーツ」に出掛ける。私は外国製のスキー専用のザックを購入。国産にない設計で背負い勝手が最高で満足した。

9日日曜4時起床。まだ雪がチラチラ降っている。昨日からの積雪は山で50Cm位。中の湯に向かう。ここから焼岳に上るのは初めて。釜トンネルの上で車が衝突していた。旧道に入る。神村さんのスタッドレス・4駆でやっと。が、先は雪崩で通れない。よく観察するとジグザグの旧道の上から除雪し下の旧道にガンガン落としている。危ない所だった。

中の湯から出発。天気は好転してきた。2月にルートを間違っているの、今回は林道を詰める。2回ターンすると夏に見覚えがある金網が確認出来た。取り付きは物凄い急登。しかも硬い旧雪の上に新雪が乗っているので上り難い上り難い。右手下で物音がするので見下ろすと2名の壺足登山者が苦労して上っていた。下山時分かったことだが、実は一人は旧友だった。

見事なブナの森を抜けるとシラビソの森に変わっていく。森と新雪と程よい上りでピッチはグングン上る。この所調子が出なかった加藤姉御も今日は絶好調でビシバシと着いて来る。やがて高天原で釜トンネルルートと合流する。下掘沢を挟み、左右に南峰と北峰が見渡せた。下掘沢には巨大なデブリ(雪崩跡)があった。今日沢ルートは危険で入れれば自殺行為だ。実際昨日と今日で何人も人が遭難した。事故の中に笠ヶ岳・穴毛谷があったが、実は今回計画で検討された。しかし過去のデータで4月は雪崩の巣が判明し中止した。

南尾根を上り南峰城砦に辿りつく。風が強く寒い。ここからはアイゼンの世界だ。ただ何故か神村さんは「持ってこなかった」。この風では待ちきれないので先に下る。加藤と行く。一步一步、ゼイゼイ・ハアハア、厳しい上りだ。しかし、山はこの「厳しい上り」が「醍醐味・面白さ」なのだ。やがて穂高・笠が次第に大きくなると南峰頂上だった。今日も50名位の登山者で一番乗りだった。下に次のパーティーがやっと着いた。

さあ、滑降だ。高天原までの急斜面は上る登山者の脇を滑ることも相まって、超・

ど級の快適さだった。上り2時間をたったの15分！とは。この頃になるとゾロゾロまあ上ってくる。途中、外人さんと交流。やや狭い森を抜け、中の湯の裏玄関まで滑り下りた。更に駐車場の車の脇まで滑り込む。う～ん、良かった！

中の湯温泉で生をいただき、熱燗を飲んで蕎麦を食い露天風呂に入る。出て来るとロビーが慌しい。女将が電話で何やら対応している。2月に上った裏山の安房山で雪崩事故があったと言う。骨折位だよね、と皆で意見を述べ合ったが、実際は1名亡くなった。仔細は不明だが、山は安全第一だ。



